



特定非営利活動法人(NPO)

インド福祉村協会

会報
2002.4.1
Vol.7

India Welfare Village Society News

インド福祉村病院(現地名 アーナンダ病院) 開院四年目を迎えました。

クシナガラ(北インド・UP州)

インド福祉村病院(現地・アーナンダ病院)は四年目を迎えました。2001年(平成13年)10月までの三年間で五万五千名もの患者さんが来院し、インドの貧しい部落の人々に貢献、信頼されており、これも日本とインドの多くの人々に支援していただいたお陰と深く感謝しております。

三年目には新たにエコー、スピロメーター、手術台も装備されました。7月には女医レイヌカ先生も着任され、医療活動のほかに無料結核治療、妊婦検診、保健衛生指導も進展しております。

新年度には分娩室、回復室の増設、遠方部落への巡回診療の計画もあります。日本の皆様の更なるご支援をお願い致します。



(結核患者の生活指導)

尚二層の努力を

理事長 山本孝之(福祉村病院院長)

私達は、みんなの力でみんなの幸せを守るためにいつも働いております。インドでも、地域の皆様の幸せと健康に奉仕させていただきたいと考えて、インド福祉村を作り、施療病院の運営をしてきましたが、三年以上過ぎて尚、地元の皆様にはよくご理解いただけてないのが実情です。

クシナガラ地区での乳幼児死亡、結核を始めとする多くの感染症や寄生虫病、そして、喘息の減少を目指すとともに、インドの皆様の要望を的確に把握するための努力を重ねてゆきたいと思っております。

これからもご支援とご協力を賜われますようお願い申し上げます。

三周年のあゆみ

医師 P.N.グプタ

日本の皆様のあたたかいご支援で三周年を迎えることが出来たことをたいへんうれしく思います。三年目の壁というか、本年がすこし易い気候であったのか来院の患者数が減少し責任を感じております。

2001年6月中旬より約二ヶ月をかけて外壁、内壁の再塗装、X線室、暗室、超音波室、手術室、検査室、薬局の改修、看板の塗り替えを行い8月15日独立記念日には終了しました。

超音波診断装置、肺機能検査機器(スピロメーター)、小手術台、无影灯が新規に設置され、地元の人々の要望に少しでも応えるべく努力しております。

新年度(2002年)は診療活動の発展は勿論、保健衛生教育の充実と、巡回診療もしたいと計画しております。7月より女医レイヌカ先生が着任されま



(小手術台)

したので協力して益々充実した診療に心がける決意です。今後ともアーナンダ病院へのご支援をお願い致します。

【風土病的疾病】

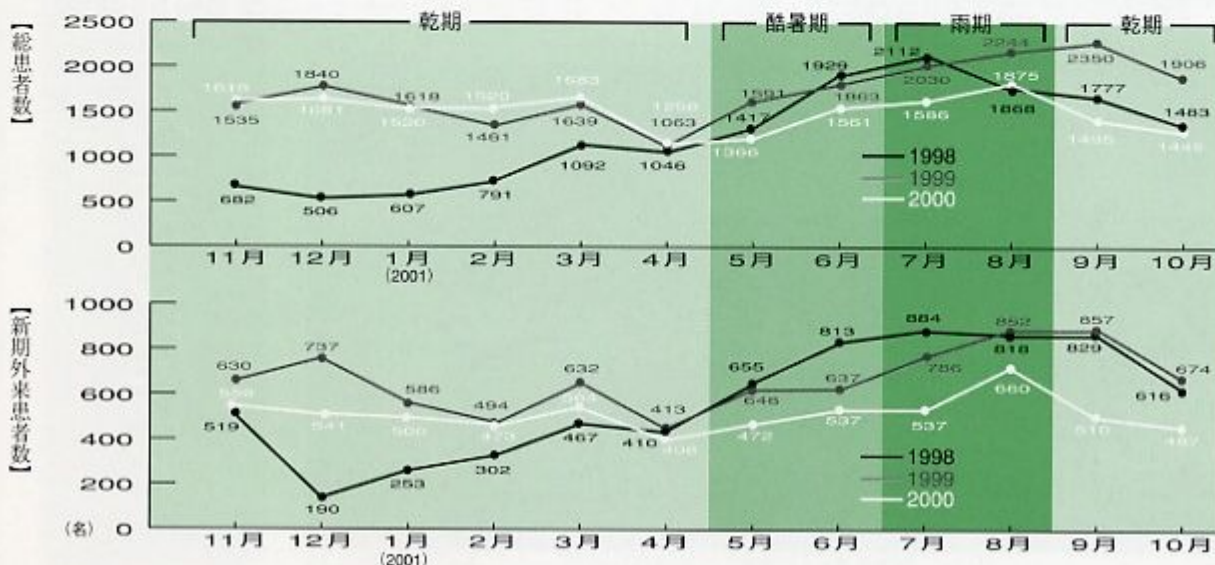
- 1) フィラリア症
- 2) マラリア
- 3) チフス
- 4) ハンセン氏病
- 5) カラアザール
- 6) 日本脳炎
- 7) アメーバ赤痢
- 8) 甲状腺腫
- 9) 狂犬病
- 10) 蛇毒
- 11) 象皮病

【患者数】

	1年目	2年目	3年目
総患者	15311名	21140名	18606名
新来患者	6759名	7946名	6247名
再来患者	855名	13203名	12359名
男性 36% 女性 64% 小児 10%			



(エコー)



患者数の推移

三周年を迎えて

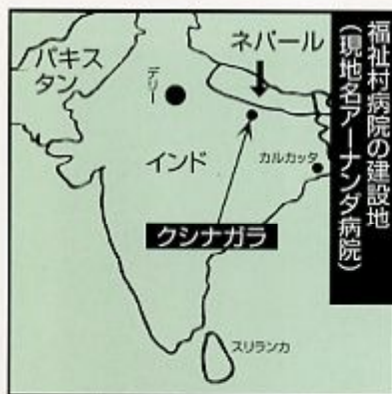
常務理事 柴田 昌雄(愛知学院大学前教授)

2001年11月で開院以来三年となりました。その間本当に多くの日本およびインドの方々からご支援を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。日本政府の外務省、郵政省(現郵政事業庁)からも多額の援助をいただきました。重ねて御礼申し上げます。

現地病院もグプタ医師をはじめとして全職員が、きびしい環境下で努力してくれました。その結果約五万五千名以上の患者に医療を提供することができましたことを報告申し上げます。

この三年間で病院の基礎は出来ましたので、次の三年間は地元の人々の要望に応える様なより質の高い病院にすることが急務と考えます。そのためには、今迄以上の皆様方の御支援が必要です。何卒宜しくお願い申し上げます。

合掌



【現地住所】

VILLAGE SIRSIA DISTRICT PADORONA
UTTAR PRADESH INDIA
TEL 91-5564-72428/91-5564-72429

■ヒンディ語学生劇の公演

大阪外国語大学 ヒンディ語科

溝上富夫教授ほか学生九名

場所：クシナガラ プッタ大学 中庭。

月日：2002年1月3日

公演劇名：「潔癖症」、「鏡草子」。

観衆：約二千名。

プッタカレッジの理事長を中心に地元
の有力者、警察署長が出席され歓迎
挨拶の後、大阪外大の学生ヒンディ語劇が
始まりました。

初めの「潔癖症」ではインドスタイルの
ご主人を何もかも清潔でないと気がす
まない奥様とその家族で衛生問題をあつ
かないながら病氣は「アーナンダ病院へ行き
なさい」とか「アーナンダ病院のグプタド
クターに相談した方がよい」等の言葉が
組み入れられ、笑い、拍手があり盛り上
がりました。幕間には地元の子供達の舞
踊もありました。



(公演と舞台)

2公演目の「鏡草子」は日本の古典を
戯曲化したもので、初めて鏡を見て自分
を他人と錯覚する物語で、うなずき、笑
い、拍手喝さいで演ずる舞台の学生も大
いに乗せられ、大声の熱演でした。これこ
そ客席、舞台が一体となった素晴らしい
感動劇となりました。

2階の窓や屋根の上から観る学生も
たくさん居て、途中で帰る人は一人もな
く、終了後、拍手が鳴り止まず地元民の
大きな感激を感じました。

新聞5社以上やテレビ局の取材とイン
タビューで記念写真も取れない程、現地
の人々に取り囲まれてしまいました。

町の有力者が素晴らしい計画だった、
とても良い劇だったと多くの方々にサイ
ンや握手攻めにあい、二年間の苦勞が飛ぶ
思いでした。

1月でもとても暖かく天候にも恵ま
れ、最良の公演で溝上教授もこんなに盛
り上がり、感激されたのははじめての経
験だと大変喜ばれました。学生さん達
も今回の公演ではクシナガールが一番良
かったと感激されていました。

アーナンダ病院の保健衛生教育の一環
として理解されたと思うし、病院のグプ
タ医師と職員の名譽向上に大いに役立っ
たと感じました。病院の職員もよく手
伝いました。

これもひとえにこの公演を支援して
下さった、さわらび会山本理事長、イン
ド福祉村協会のお蔭と深く感謝申し上
げます。



(ヒンディ語劇公演全景)

新医師紹介

女医

Renuka Singh(レイスカ シン)

MBBS(L, L, R, M, 医科大学1994卒)

KASIAより通勤

ご主人 眼科医師 病院勤務

2001年7月よりアーナンダ病院に勤務されま
した。先生は主に女性患者と新米患者を診察され
ております。11月には女の子を出産されて休診中
でしたが2月に復職されました。

将来は産婦人科の勉強を希望されており、部落の
人々におおいに期待されております。

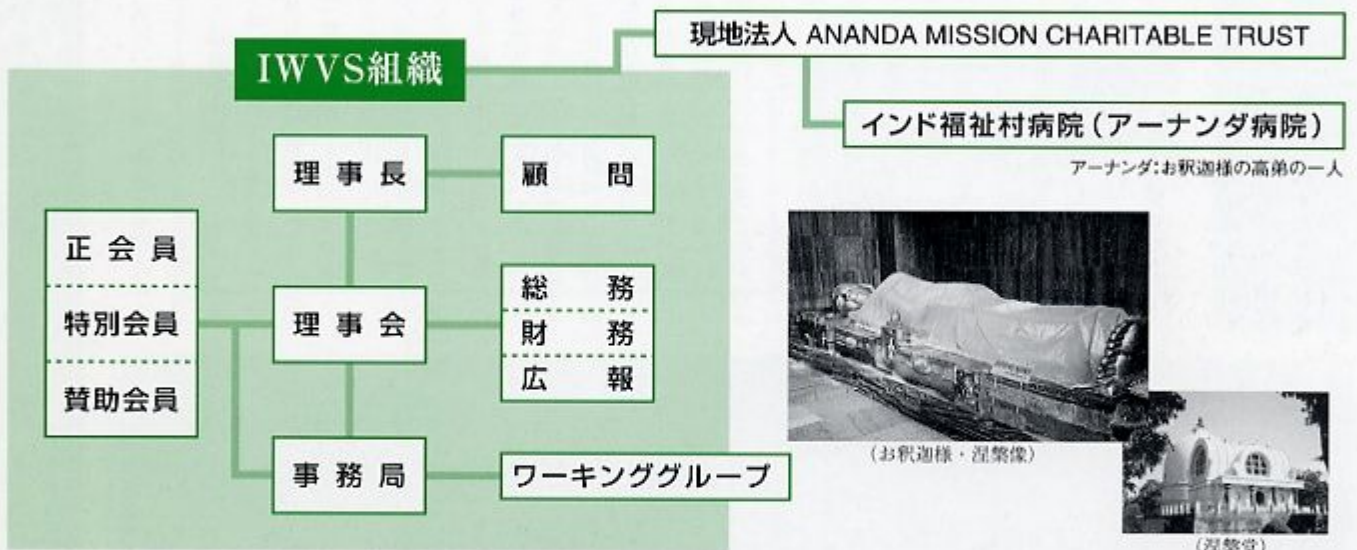


(新女医診察)

特定非営利活動法人(NPO)

インド福祉村協会 (IWVS)

特定非営利活動法人 インド福祉村協会は、民族、宗教を超えて日本とインドの両国民が共通の価値観を共有し、互いに学び合うことを理念として、インド国の医療に恵まれない人々に対して、プライマリ・ヘルスケアを中心とする診療活動と保健衛生活動及び不就学児童らに対する教育活動を行うことによって、インド国の医療の充実及び幼児教育の充実を図り、もって両国の友好に寄与することを目的としています。診療活動としてクシナガラにてインド福祉村病院(アーナンダ病院)を開設、運営を行っています。



入会のお願ひ

正会員：年会費 5,000円

総会の議決権があります。協会の会報を毎回お届けします。プロジェクトの進み具合、現地の情報を逐次お知らせします。現地宿泊の便宜を図ります。

特別会員：年会費 100,000円(一口以上)

総会の議決権はありませんが、代表一名を正会員として登録します。その他正会員と同様。

賛助会員：年会費 1,000円(一口以上)

総会の議決権はありません。協会の会報をお届けします。

【会費・寄附の支払い方法】

1. 郵便振替 郵便振替用紙を利用し、最寄りの郵便局より手続きを行う。

ご一報いただければ用紙をお送り致します。

郵便振込(口座番号)00830-2-65008 (加入者名)インド福祉村協会

募金のお願ひ!

少しでもあなたの善意を分けて下さい。

インド福祉村協会 (INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY)

理事長/山本孝之(福祉村病院院長) 顧問/飯島宗一(元名古屋大学学長)

常務理事/柴田昌雄(愛知学院大前教授) 理事/高木元昊(慈専寺住職)

事務局長/村田 智

ほか

■発行者 インド福祉村協会 (IWVS)

■発行人 大竹紘一 ■編集協力 文創社

■インド福祉村協会事務局

〒441-8124 愛知県豊橋市野依町山中19-12

TEL:0532-48-1138 FAX:0532-48-2365